

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 116
2025.12

TOPICS
1

「LBSザ・フォーラムせとうち in 岡山」にて那須学長が講演



「LBSザ・フォーラムせとうちin 岡山～瀬戸内から、日本を元気に。未来をひらく情熱と発想」が、11月28日に山陽新聞社さん太ホールで開催され、那須保友学長が登壇しました。

那須学長は、「地域において大学が果たすべき役割とは—岡山大学の挑戦ー」と題して講演を行い「岡山大学に関わる過去・現在・未来の人々(マルチステークホルダー)の持続的で多様な幸せ(well-being)の実現」を不易の目標として掲げ、本学が採択されている文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」の取り組みや「国立大学法人岡山大学研究大学宣言」などを紹介しました。また、学生主体の「岡山大学DS部」や「岡山テックガレージ」、「カーボンフットプリントに関する活動」にも触れ、今後も地域のシンク&アクションタンクとして、地域の課題解決や活性化、well-beingの実現に貢献していくことを誓いました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14870.html



TOPICS
2

ジョブシェア制度を活用し、本学事務職員が タイ・バンコクで国際業務を実践

本学は、2025年8月から事務職員を対象に、新たな学内兼業制度「ジョブシェア制度」を導入しました。本制度は、部局の垣根を越えて多様な業務を経験することで、職員一人一人の高度化を促し、大学全体の組織力向上につなげることを目的としています。

前回のラオス・カンボジアに続く今回の取り組みでは、学務系部門および研究系部門からそれぞれ1人の若手職員が、国際部門の主任専門職員の指導を受けながら、11月18～21日にかけてタイの協定校・関係機関への表敬訪問、高校・大学での説明会実施、高校での海外進学フェアに参加しました。

今回の国際業務への参加は、職員自身の業務と大学の国際展開がどのように結びついているのかを理解する機会となり、今後の業務改善やスキル向上に向けた気づきが多く得られました。また、異なる部局の職員が協働しながら、本学の魅力発信に取り組んだことで、学内の垣根を越えた協力体制の強化にもつながりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14886.html



Pick up!

岡山イノベーションコンテスト2025で本学学生が部門賞を受賞！



革新的なビジネスプランを競う「岡山イノベーションコンテスト2025」が11月29日に開催されました。本学からは教員・学生を含む3人がファイナリストに選出され、大学・専門学校生の部で大学院環境生命自然科学研究科博士前期課程1年の村瀬遊大さんが部門賞を受賞しました。村瀬さんは、酵母を用いて高価なたんぱく質を安価かつ大量に生産する「酵母で“死ぬほど”作らせるタンパク質大量生産革命」をテーマに発表しました。

一般の部では、学術研究院医歯薬学域の内山淳平研究教授が薬剤耐性菌という国際的課題に挑む大学発ディープテックとして、「抗菌酵素で切り拓く、動物薬の創薬支援」をテーマに発表しました。

また大学・専門学校生の部には、工学部工学科機械システム系3年で大学発ベンチャー企業 KYOUSOU ROBOTICS を運営する伏谷健太郎さんも登壇し、「製造業 × ロボット × 岡山で『未来の工場』を実現する」をテーマに、製造業の搬送工程に特化したロボット導入による革新的なビジネスプランを披露しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14898.html



TOPICS
3

文部科学省「研究開発マネジメント人材に関する体制整備事業」に採択

本学は10月6日、文部科学省の令和7年度「研究開発マネジメント人材に関する体制整備事業」に採択されました。

本学は、本事業において、体制強化機関から研究開発マネジメント人材を受け入れ、「研究力の調査分析、経営戦略」、「産学官連携支援、知財関連(地方大学型)」、「スタートアップ支援関連」、「プロジェクトマネジメント」の4つの研修メニューを提供します。プロジェクトマネジメントは本学独自の研修メニューであり、世界最大規模のPM組織であるPMIアジアパシフィックおよび一般社団法人PMI日本支部との長年の密な連携実績に基づき研修を実施します。

本学は、本事業を通じて、知から新たな価値を創出する人材「ナレッジワーカー」を育成・輩出することにより、新たな価値の創出を強化し、社会変革の推進に貢献します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14880.html

TOPICS
4

岡山大学長期ビジョンの実現に向けての強い決意を新たに 「国立大学法人岡山大学研究大学宣言」を制定

本学は10月30日に「国立大学法人岡山大学研究大学宣言」を制定し、11月26日に開催された「2025年11月定例記者発表(学長発表)」において詳細を公表しました。

現在、本学は「岡山大学長期ビジョン2050」の実現に向けて歩みを進めています。この歩みを強めるひとつの手段として、国の事業である「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」を活用し、研究力・イノベーション創出の強化、社会実装による変革などに取り組んでいます。さらにはそれを成すための「研究大学」としての組織・制度改革を進めています。

「研究」と「教育」の両輪を日に日に強くし、かつ柔軟な変化にも耐えうるしなやかさを併せ持つ「不易流行」の感覚を執行部もしっかりと持ち、「研究大学」としての経営を、今以上に担います。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14879.html

国立大学法人岡山大学研究大学宣言

国立大学法人岡山大学は、
卓越した研究の強化推進
高度な教育・人材育成
先進的な医療・ヘルスケア
社会変革の実現
などを成すために、教学、人材、組織・制度等のすべての活動の根幹を「研究力・イノベーション創出」に置き、世界と伍し、かつ地域の中核となる研究大学として社会とともに在り続けます。



【参考】国立大学法人岡山大学研究大学宣言(制定:2025年10月30日)



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

PRESS
RELEASE

厚生労働省に標準治療が難しい食道がんに対する腫瘍溶解 ウイルス製剤「テロメライシン」の医薬品製造販売承認申請を実施

本学学術研究院医歯薬学域 消化器外科学分野の藤原俊義教授、黒田新士准教授らの研究グループが食道がんに対して開発を進めてきた腫瘍溶解ウイルス製剤「テロメライシン」を、岡山大学発バイオベンチャー オンコリスバイオファーマ株式会社が厚生労働省に医薬品製造販売承認申請を行いました。

本学で開発されたテロメライシンの臨床試験は、2006年から米国食品医薬品局の承認のもと、米国での安全性を確認する第I相臨床試験から始まり、その後、基礎研究でテロメライシンが放射線治療の効果を強める現象が明らかとなり、2013年からは本学で外科手術や抗がん剤治療などの標準治療ができない食道がん患者にテロメライシンと放射線治療を併用する臨床研究を実施しました。また2017年からは、本学と国立がん研究センター東病院で同様のプロトコールでオンコリス社が第I相企業治験を行い、2020年からは岡山大学病院を含む食道がん治療のハイボリュームセンターでの多施設共同で第II相企業治験が実施されました。

本学で開発された「テロメライシン」は、アカデミアからの創薬シーズが市場に出るという社会的なインパクトだけではなく、低侵襲で優しい治療薬として食道がんの患者さんにとっても大きな福音となることが期待されます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1480.html

